

だるまっ子

令和5年11月 特別号
伊豆市立修善寺小学校

令和5年度 全国学力学習状況調査結果

4月に行われた全国学力学習状況調査の結果が届きましたので、お知らせいたします。

国語

【修善寺小】

国語	
県平均正答率	67%
全国平均正答率	67.2%

図や表、グラフを用いて

自分の考えが伝わるように書き表すことに課題

領域別回答状況（全国との比較）

言葉の特徴や使い方に関すること	情報の扱い方に関すること	わが国の言語文化に関すること	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
△	◎		◎	◎	○

- ・ 領域別に見ると、ほぼ全国と同じ傾向が見られました。
 - ・ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、正答率が高く、これは全国の傾向と同じでした。
- <正答率が低かった問題>
- ・ 「**図や表、グラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表すこと**」に課題があります。例えば、右のグラフを用いて学校の米作りの問題点とその解決方法を書くというような問題です。「学校の田んぼでは雑草が増え続けているので、雑草取りの回数と人数を増やす。」と書ければ正解です。
 - ・ これからは、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら自分の考えをまとめていくことが求められています。そのためにも、授業の中で「話し合う場」を位置づけ、子供たちの情報活用能力の育成を目指していきます。

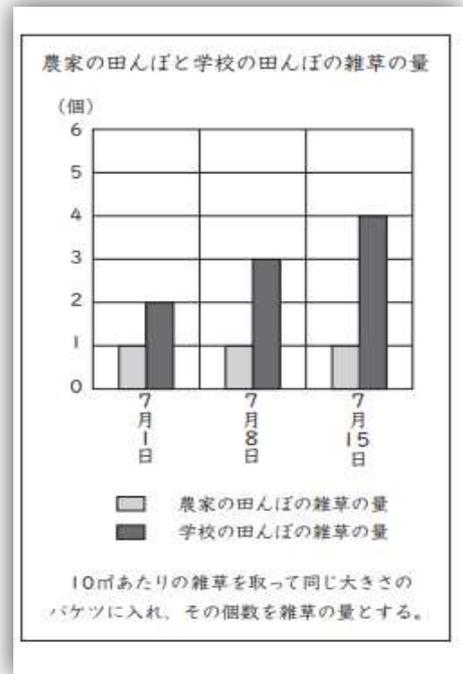
算数

【修善寺小】

算数	
県平均正答率	62%
全国平均正答率	62.5%

おおむね良好

「図形」の問題に課題



領域別回答状況（全国との比較）

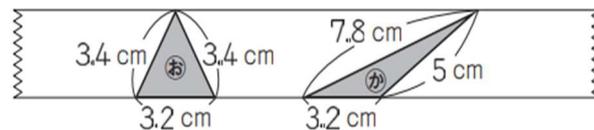
数と計算	図形	測定	変化と関係	データ活用
◎	◎		◎	◎

- ・ 領域別に見ると、ほぼ全国と同じ傾向が見られました。
- ・ 全国では「図形」と「データ活用」の問題に課題が見られましたが、本校では「データ活用」の問題はよくできていました。「図形」の問題は、全国平均を上回ったものの難しかったようです。
- ・ その他の領域の問題は、おおむね良好でした。

<正答率が低かった問題>

- ・ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、理由を言葉で説明する問題です。本校では「等しいことは分かるが言葉で説明できない。」「高さが書かれていないのでこのままでは比べることができないと考える。」子供が多くいました。
- ・ 公式に当てはめて面積が求められることも大切ですが、なぜ、そのような公式になったのかその理由が説明できることも大切です。公式が導き出された過程を丁寧に扱いながら思考力・表現力を高めていきたいと思えます。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

児童質問紙より

- ・ 肯定的に捉えている子供の割合が**高い**項目は「人が困っているときは進んで助けている。」「地域の行事に参加している。」でした。家庭や地域で温かく見守られながら育てている修善寺小学校の子供たちです。
- ・ 肯定的に捉えている子供の割合が**低い**項目は「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」でした。他者を認める雰囲気育てていくとともに、多様な意見に触れることができる授業の工夫をしていきます。
- ・ 「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。」と答える子どもの割合が高く、タブレット等を使ってスライドにまとめる活動が効果的であったと思われます。
- ・ 図書室（休日の図書館を含む）に、週1～3回行く子供の割合が高いのは嬉しいことです。
- ・ 「課題解決に向けて自分から取り組んだ」と「自分にはよいところがあると思う」の回答結果を比べてみると、「自分から取り組んだ」と答えた児童の多くは「自分にはよいところがあると思う」と答えています。自己有用感が「自分でやってみよう」という意欲を育み、それがまた自信となって次のステップにつながるようです。自己有用感を育みながら生涯にわたり学び続ける子供の育成を目指していきます。



